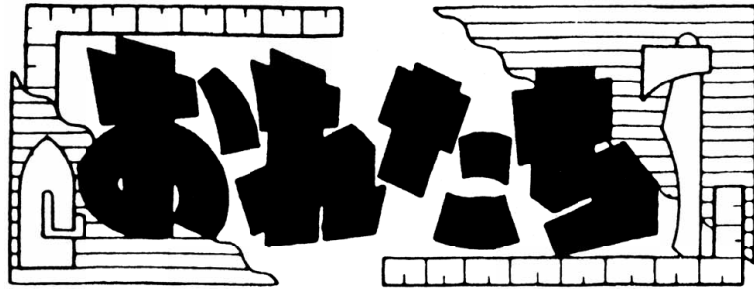


無料法律相談日の案内

9月15日(金)14時~16時

希望者は前日までに予約を

9月当初組合員数=1826人 (-6人)



発行所
東京土建一般労働組合荒川支部
東京都荒川区荒川6-3-1
TEL(3892)9131 FAX(3892)9381
発行者・津田久久/編集長・小熊賢一
http://www.doken-arakawa.org/

平和特集

2023年原水禁世界大会・長崎 台風の中、4300人が参加

2023年8月7日・8日の2日間、原水爆禁止世界大会・長崎が開催されました。初日は長崎ブリックホール大ホールで開会総会が行われ、日本原水爆被害者団体協議会の田中重光代表委員による被爆体験や、鈴木史朗長崎市長をはじめとする各団体や被爆者によるあいさつなどが行われました。2日目は平和に関する各テーマごとの13の分科会や、被爆遺構や碑めぐり、基地調査などの動く分科会が行われ、今年は3年ぶりに佐世保基

地調査行動も開催されました。また、台風6号の影響により、3日目に予定していた閉会総会は予定を早めて2日目の分科会の後に開催されました。閉会総会では、各国の政府代表あいさつや、学生による福島第1原発事故に対する訴えがありました。その後文書採択が行われ、参加者は4300人(オンライン参加含む)、支部からは2人(書記含め)が参加しました。

国内だけではなく、海外からも多くの方が参加すると聞いていましたが、実際に会場に行くことが出来ず、全国各地や海外から代表団の方々がたくさん来ていて、会場は熱気に包まれていました。

今回の原水禁大会の中で最も印象に残ったことは、開会総会の中の被爆者あいさつで田中重光さんのお話で、核兵器は瞬間で全てを奪い去ったという発言でした。

当時、田中さんは庭で弟と祖父と遊んでいた時に、原爆が投下されたのが吹き飛んでしまったものの、大きな怪我は無かったそうですが、放射能の影響が大きくなり、生まれてきた子供はその影響で肺が通常の20%程度の機能も持たず、体温も30度に満たず、肺を広げる手術を予定していましたが、生まれて来てからわずか3日で亡くなったそうです。また、当時田中さんは差別と偏見の目で見られたそうです。

この田中さんのお話は、私の祖母の話と通ずる部分がとても多く、凄く印象に残りました。今年の機関誌の新年号に広島市の被爆の記事を掲載させていたいただいた私の祖母も、学生時代は差別や偏見を受け、その後、放射能の影響で全身に癌を患い肉体的、精神的に苦しみました。今年の7月24日、癌による衰弱と最後は肺炎を患い亡くなりました。まだ祖母が亡くなっていた日も浅い中で、今回の原水爆禁止世界大会に参加させていただき被爆者の話を聞くことができ、核兵器の恐ろしさを、放射能の恐ろしさをより身近に実感しました。

田中さんのお話の中で、生まれてすぐに亡くなった子供は被爆2世であるという話を聞いて、この凄惨な歴史がこれからも若い世代に語り継がれていかないと、近い将来同じ過ちを繰り返すことになること、改めて平和学習の大切さを実感しました。

【五箇谷日出雄副執行委員長】荒川分会 原水爆禁止世界大会長崎に平和を願う者として参加しました。7日の開会総会では世界の国の代表と日本各地から参加した人達で埋め尽くされた中開催されました。長崎市長は原爆による悲惨な体験を、誰にもさせないために、長崎市民は核兵器のない世界の実現を訴え続けていますと報告しました。なかで

も心に残ったメッセージは「原爆は一瞬にして人類を滅亡させる兵器であって二度と使わせてはならない」と訴えた被爆者の田中さんの言葉に感銘を受けました。被爆者の思い原爆の悲惨さを継承しなければと思いました。8日は大軍拡と平和、くらしの分科会に参加しました。岸田内閣が軍事大国にしようとする望んでいる43兆円のなかみで敵基地攻撃ができる巡航ミサ

イル・トマホーク4000を爆買して、南西諸島に配備しようとしています。平和を望む者として許せることではありません。岸田内閣には原爆の被爆国として核兵器禁止条約の締結を望みます。大会は核兵器廃絶と平和の構築にむけて、知識や経験を得ることができました。今後も反核平和運動に関わっていきたいと思います。台風6号の影響で8日の分科会は午前中になり午後閉会総会が行われ1日早い長崎大会になりました。

【菊池賢太郎】書記 広島市の被爆の話は被爆者である祖母からよく聞いていましたが、長崎の原爆の話はあまり聞いたことが無く、是非学びに行きたいと思い今回の原水爆禁止世界大会に参加させていただきました。原水禁大会は毎年日本

国内だけではなく、海外からも多くの方が参加すると聞いていましたが、実際に会場に行くことが出来ず、全国各地や海外から代表団の方々がたくさん来ていて、会場は熱気に包まれていました。

今回の原水禁大会の中で最も印象に残ったことは、開会総会の中の被爆者あいさつで田中重光さんのお話で、核兵器は瞬間で全てを奪い去ったという発言でした。

当時、田中さんは庭で弟と祖父と遊んでいた時に、原爆が投下されたのが吹き飛んでしまったものの、大きな怪我は無かったそうですが、放射能の影響が大きくなり、生まれてきた子供はその影響で肺が通常の20%程度の機能も持たず、体温も30度に満たず、肺を広げる手術を予定していましたが、生まれて来てからわずか3日で亡くなったそうです。また、当時田中さんは差別と偏見の目で見られたそうです。



平和記念像(右手は原爆、左手は平和を示し、顔は戦争犠牲者の冥福を祈っています)

【菊池賢太郎】書記 広島市の被爆の話は被爆者である祖母からよく聞いていましたが、長崎の原爆の話はあまり聞いたことが無く、是非学びに行きたいと思い今回の原水爆禁止世界大会に参加させていただきました。原水禁大会は毎年日本

国内だけではなく、海外からも多くの方が参加すると聞いていましたが、実際に会場に行くことが出来ず、全国各地や海外から代表団の方々がたくさん来ていて、会場は熱気に包まれていました。

今回の原水禁大会の中で最も印象に残ったことは、開会総会の中の被爆者あいさつで田中重光さんのお話で、核兵器は瞬間で全てを奪い去ったという発言でした。

当時、田中さんは庭で弟と祖父と遊んでいた時に、原爆が投下されたのが吹き飛んでしまったものの、大きな怪我は無かったそうですが、放射能の影響が大きくなり、生まれてきた子供はその影響で肺が通常の20%程度の機能も持たず、体温も30度に満たず、肺を広げる手術を予定していましたが、生まれて来てからわずか3日で亡くなったそうです。また、当時田中さんは差別と偏見の目で見られたそうです。

この田中さんのお話は、私の祖母の話と通ずる部分がとても多く、凄く印象に残りました。今年の機関誌の新年号に広島市の被爆の記事を掲載させていたいただいた私の祖母も、学生時代は差別や偏見を受け、その後、放射能の影響で全身に癌を患い肉体的、精神的に苦しみました。今年の7月24日、癌による衰弱と最後は肺炎を患い亡くなりました。まだ祖母が亡くなっていた日も浅い中で、今回の原水爆禁止世界大会に参加させていただき被爆者の話を聞くことができ、核兵器の恐ろしさを、放射能の恐ろしさをより身近に実感しました。

田中さんのお話の中で、生まれてすぐに亡くなった子供は被爆2世であるという話を聞いて、この凄惨な歴史がこれからも若い世代に語り継がれていかないと、近い将来同じ過ちを繰り返すことになること、改めて平和学習の大切さを実感しました。



少女の手記の碑文が刻まれた 平和の泉

いてぞっとしました。被爆者である祖母から生まれた私の母は被爆2世で、その母から生まれた私も被爆3世であり、今までは特に支障もなく健康に生きてこれましたが、今後どのような影響がいつ出るのか分からないというまるで時限爆弾を背負って生きているような気分です。

被爆者本人の命や人生だけでなく、新たに生まれてくる命にまで影響が及ぶというのは本当に恐ろしいです。被爆者が被爆2世、3世の方が結婚したい、子供が欲しいという経験者がいるという事を知れば、結婚したり子供を産んだりという選択を失ってしまうかもしれない。

今後の組合活動の中で平和運動をしていく上で、今回の経験を活かしていきたいと思

と、近い将来同じ過ちを繰り返すことになること、改めて平和学習の大切さを実感しました。

と、近い将来同じ過ちを繰り返すことになること、改めて平和学習の大切さを実感しました。

原爆と人間展



戦死者たちからのメッセージ(武田美通作)

【並木義男記者】荒川分会 昭和20年8月6日に広島に9日には長崎に原子爆弾が投下され広島で約14万人、長崎で約7万4千人も人が亡くなりました。あの日から今年で78回目の夏が来ました。あの日の悲惨な出来事を語り継ごうと主催

催・原水爆禁止荒川協議会、後援・荒川区教育委員会、会・町屋文化センター2階ホールで「原爆と人間展」が開催されました。

会場には武田美通さんの作品『被ばく、そして黒い雨』が展示される他、原爆投下後の悲惨な写真など多くの資料が展示されていました。別室では『ヒロシマのたちの祈り』『人間をかえせ』など多数随時上映していた。武田美通さんの『被ばく、そして黒い雨』の前で西尾久在住の宮内さんという方に話を伺いました。

宮内さんは「毎年この時期は原爆と人間展に来ますが、この戦争のむごさと原爆の恐ろしさを後世に語りつなげなければと思います」と話します。

未だにアメリカでは必要悪で原爆投下で戦争は終わらせたと話すがいます。私は原爆使用は大量殺人で生き残った人の人権無視は絶対悪だと思います。

広島市教育委員会は、市立小学校3年生向けの平和学習教材に掲載した漫画『はだしのゲン』を、今年度から掲載を取りやめました。子供の頃からの戦争、原爆のむごさを言い伝えていく事は大事ではないでしょうか。



凄惨な状況がパネルで展示されていました

平和のための荒川戦争展

【佐藤一博通信員】東尾久2分会 8月20日、サンパール荒川4階で平和のための荒川戦争展実行委員会主催の「平和のための2023年荒川戦争展」が開催されました。

「歴史から学ぼう。今を新しい戦前にしないために」をテーマに、展示コーナーでは村瀬守保氏が従軍した時に撮影した戦争の実態を生々しく伝える写真が展示されていました。沖縄の展示では沖縄戦の悲惨さを伝え、また、現在の辺野古基地の拡張、南西諸島ミサイル基地化に反対する沖縄県民の運動を伝えていました。

他の展示では、七三部隊の罪業・尾久本土初空襲など多岐にわたっていました。

紙芝居コーナーでは女性紙芝居師の三橋とらさんが



様々な作品や資料が展示され 多くの人が訪れました



【吉田敬子通信員】東尾久2分会 7月23日(日)、京成佐倉駅からバスで佐倉ふるさと広場に行きました。

オランダ風車と青空を背景に印旛沼湖畔に広がる一面のひまわりが咲きそろっていました。



一面の向日葵畑に 立派な風車が佇んでいました

また、印旛沼観光船に乗り40分遊覧してきました。暑い中でしたが、風車の中の見学もでき楽しかったです。

集団健診 開催のお知らせ

9月8日より、荒川生協診療所で、毎週金曜日の17時から18時半で集団健診を開催しています。申込み方法は毎月配布している健診チラシを記入の上支部までFAXを送って下さい。

また、今月から支部公式LINEでも受付を開始しました。LINEのトーク画面に「健診」「集団健診」と送付すると入力フォームが送られてきますので、そちらをコピーして使用して下さい。受付完了メールが来るまで予約は確定しませんがご注意ください。

仲間の横顔

【町屋北苑】今回紹介する方は、7群に所属の早川厚さんです。

会社で内装工として働いていた早川さんは2019年に働き方が変わったことをきっかけに、もともと知



一緒にゴルフしませんか？

り合いだった相楽さんに相談をしたところ組合の話聞いて加入することになったそうです。

職歴は23年くらいで、組合に加入している仲間も多く、半年に1回は飲みに行くそうです。

趣味は昔野球をやっていたのですが、今ははったりやらなくなりました。

以前働いていた会社から頂いたゴルフセットがあるので最近ゴルフを始めてみようかと思っています。笑顔で話してくれました。ゴルフを教えてください。一緒にゴルフしませんか？